

# のびやか



## 50号



### ひまわりパペットキャラバン2010 人形劇団ぱんによる人形劇

人形劇出張公演 ひまわりパペットキャラバン2010に応募し、31施設の中から当センターが当選しました。3月23日にセンター講堂で人形劇団ぱんによる人形劇を観劇し、約100名ほどのセンター入所利用者さんが人形劇を楽しみました。人形劇だけでなく、劇団の方とも交流し、楽しい時間を過ごしました。

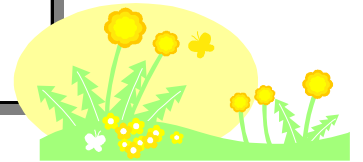
目次：	
特集「小児科から」	2
入所部門	3
読書コーナー	3
装具業者さんより ワンポイントアドバイス	4~5
地域の事業所の紹介	6~7
掲示板	8

## 『周生期脳障害について』

～第1話～

青い鳥医療福祉センター

小児科医長 橋本真帆



今回から担当させていただきます、小児科の橋本真帆です。どうぞよろしくお願いいたします。

運動障害や知的障害の原因として多い周生期の脳障害についてお話をさせていただきたいと思えます。

運動障害や知的障害は様々な原因により発症すると考えられています。これらの原因を脳が障害を受けた時期ごとに出生前要因、周生期要因、出生後要因と分けて考えることができます。

出生前の要因としては遺伝子異常や先天代謝異常など先天的な疾患や奇形、胎児期の感染症や胎内環境の異常などの原因があり、出生後の原因としては髄膜炎や脳炎・脳症、また外傷や脳血管障害、溺水などによる脳の障害などが多くみられています。これらを除く、妊娠後期から出生後間もなくまでの時期に原因を有するものが周生期脳障害と呼ばれております。周生期脳障害の原因としては早産とそれに伴う脳室周囲白質軟化症、仮死などがあります。

## ●早産

通常は妊娠40週を出産予定日としていますが、37週から41週までの出産も正期産とよばれています。妊娠後期は胎盤の血流が変化しやすく出血が見られることもあり、また子宮内の感染症などによっても子宮の収縮が強くなったり子宮頸管が開いたり、とさまざまな原因で赤ちゃんが正期産の範囲よりも早く子宮内からでききてしまうことがあります。このような妊娠37週未満での出生を早産とよんでいます。

早産の場合、問題になってくるのは赤ちゃんの体が小さいことばかりではありません。赤ちゃんの体の機能がまだ未成熟な状態で生まれてくるのが最も大きな問題となっています。たとえば、肺が未成熟のためがうまく呼吸ができず脳などに十分な酸素が送られないことがあります。また血液の流れが未成熟で血圧が不安定なためさまざまな場所に出血を起こす事があります。特に脳の出血はその後の運動発達や精神発達にも大きな影響

を及ぼす事があります。

## ●脳室周囲白質軟化症

赤ちゃんの脳血管がしっかり発育していない在胎24週から36週ころにかけて、感染や出血によって子宮が強く収縮すると、お母さんからの酸素を赤ちゃんに運ぶ胎盤や臍帯（へその緒）の血流が減少して赤ちゃんへ十分な血液が供給されなくなります。この時期の赤ちゃんの脳血管は脳の表面から深いところへ向かう血管と、脳室という脳の深いところから表面へ向かう血管がありますが、まだこれらの血管が完全にはつながっていない部分（無血管域）が見られます。この場所は血流低下の影響を受けやすく、血流が低下すると周りの脳の組織に十分な酸素が運ばれずにダメージを受け、だんだんと壊死して数週間で脳室の周りの脳組織に穴が開いてきてしまいます。この状態を脳室周囲白質軟化症と呼んでいます。

脳室周囲白質軟化症が起こりやすい部位の近くには下肢の運動神経や視力に関係する神経が走っているため、将来的には下肢の症状が重い脳性麻痺や視覚障害、てんかんを発症する可能性があります。しかし脳の表面は血管の発達が進んでいるために重い障害を受けていないことが多く、知的障害は比較的軽いこともあるといわれています。最近では成長に伴って学習障害や周囲の環境への適応障害などのトラブルが生じることもあるということがわかってきており、長期にわたる援助が必要と考えられます。

次回は仮死についてお話をさせていただく予定です。

## お知らせ

47号までの特集「脳性麻痺について」は、執筆者が退職されたため、内容の途中ではありましたが、終了とさせていただきます。ご了承ください。



## 入所部門

### 重症心身障害児(者)棟 「ひまわり東棟」

#### ♪ 音楽会 ♪

平成23年3月にセンター1階の園児食堂にて音楽会を実施しました。毎年、夏に行われている青い鳥夏まつりに出演しているスマイル音楽隊「一生懸命」のメンバーが、日頃の病棟での音楽活動を通して多くの方々に楽しんでいただこうと実施しました。外来の患者さんやセンターへ入所している利用者さんがたくさん参加し、たいへんの賑やかな会となりました。（支援員 葛谷）



## 読書コーナー

### 「タラがだいはいっせいたら」

北島光茂：ぶん 大橋重信：え

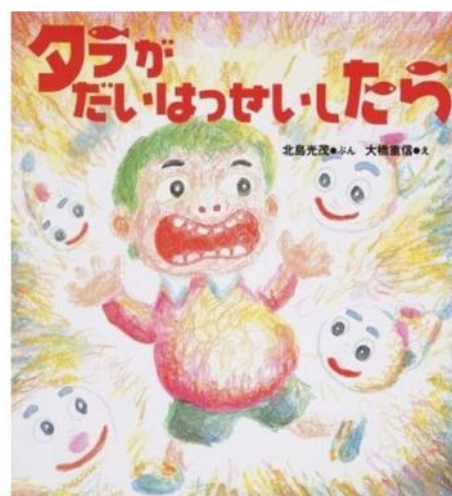
小さい頃から、ぼくのお母さんはなにかあるたびに、『〇〇したら』『〇〇だったら』とばかり言う。ところが10歳の誕生日、ぼくのおなかに溜まった『タラ』たちが、ついにおなかを飛び出してしまう…。

大きくなったら、いい子になったら、おべんきょうしたら…  
こんなタラにおぼえがあったら、この本を読んでもいいかもしれません。

お母さんの何気ないひとことが、子どもには大きなストレスに。

とてもユーモラスで面白いのですが、自分を振り返りちょっと反省したりするかもしれません。

（看護師 橋本）





## ◆◇装具業者さんよりワンポイントアドバイス◇◆

### 子どもの靴の選び方 Part4

(有)アルテックブレース 佐々木 浩一 氏

子どもの靴を買うときには、保護者の方が靴の前と後ろを両手ではさんで曲げてみてください。靴底が前から3分の1のところまで、簡単に曲がる底の柔らかい靴を選んであげましょう。

#### さらに合わない靴を履きつづけたら、こんな障害が起こることも…！

大きめの靴を履いてる子どもたち、多いですね。また、脱ぎ履きがしやすいからって、大きめの靴でしかも調節機能のない靴を履いて遊んでいる子どもたち。これは大人に直して考えると、まさにスリッパを履いて運動している状態。靴が脱げないように、指を曲げたり上にそらしたり、知らないうちに指に負担をかけているのです。そのままの状態が続くと、指が曲がってしまったり、指を使わないために、アーチの形成が遅れたり…。

また、スリッポンタイプは履くのは楽だけど、かかたがしっかりと足にフィットしにくく、調節機能もありません。面倒でも調節機能のある靴で子どもの足に合わせて締めてあげるようにして下さい。調節機能のある靴だと、少しくらい大きくても脱げないように甲の部分で調節することができ、指を自由に使うことが可能です。

ぴったりの靴を履くと、子どもたちも思いっきり遊べるものです。子どもたちにとって、遊ぶことは成長すること。健やかに成長するために、足に合ったシューズを選んであげて下さい。

生まれたばかりの状態から少しずつ手足を動かして、ハイハイを始め、やがて立って歩き始める子どもたち。成長に伴って、運動行動は大きく変化します。

また、子どもの成長には個人差があり、成長によって足の状態や運動行動に大きな違いがあるので、靴はそれぞれの成長過程に合わせて選んであげてください。

#### 0～1歳；元気に歩き始めるための準備期間。

これから元気に歩き始めるための準備期間です。

赤ちゃんは、生後1年間に驚くほどの勢いで運動行動が発達します。

一人座り、ハイハイ、つかまり立ち、物につたわって歩く、といった過程で運動行動を習得していきます。特にハイハイは、直立姿勢とバランス保持という要素以外の、歩行に必要なすべての要素を使っていると言われてます。手足だけでなく腰、お腹、背中筋も使い、歩き始めるために重要な役割を担っています。

#### 1～3歳；はだし感覚で歩け、地面からの衝撃を和らげてあげるクッション性ある靴を選んでください。

やがてよちよちと一人で歩き始めた子どもたち。

外を歩くようになると靴が必要になってきます。

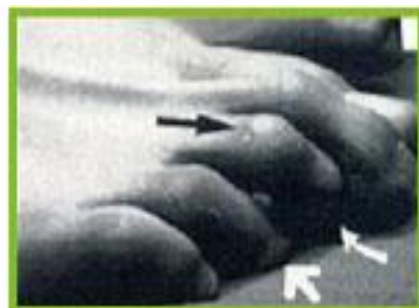
2歳くらいまでの歩き方は大人とはまったく違い、



陥入爪



外反母趾



ハンマートウ



着地の時に足全体が同時に地面につく歩き方で、大人のようなかかとから前足部への重心移動はみられません。

2歳から3歳にかけてはかかとから着地するようになりますが、かかとでの着地はまだ弱いものです。さらにこの頃には、ゆっくりながらも走り始めます。はだし感覚で足への負担にならずに歩ける靴を選んであげてください。また、未熟なかかとを安定させるとともに、地面からの衝撃を和らげてあげるクッション性も必要です。

**3～7歳；アーチが発達していく大切な時期。  
屈曲性のよい歩きやすい靴を遊んでください。**

身体を動かすことが楽しく、走る、跳ぶ、投げるなどの基本的運動を覚えていく時期。

たくさん歩くことにより、大人に近い効率の良い歩き方を習得していきます。

またこの時期は、合理的に体を支えるために大きな役目を果たすアーチが発達していく大切な時期でもあるのです。特にアーチを発達させるためには、足指を

しっかり使った歩き方をすることが大切で、屈曲性のよい歩きやすい靴を選んで、たくさん運動させてあげることがもっとも大切です。

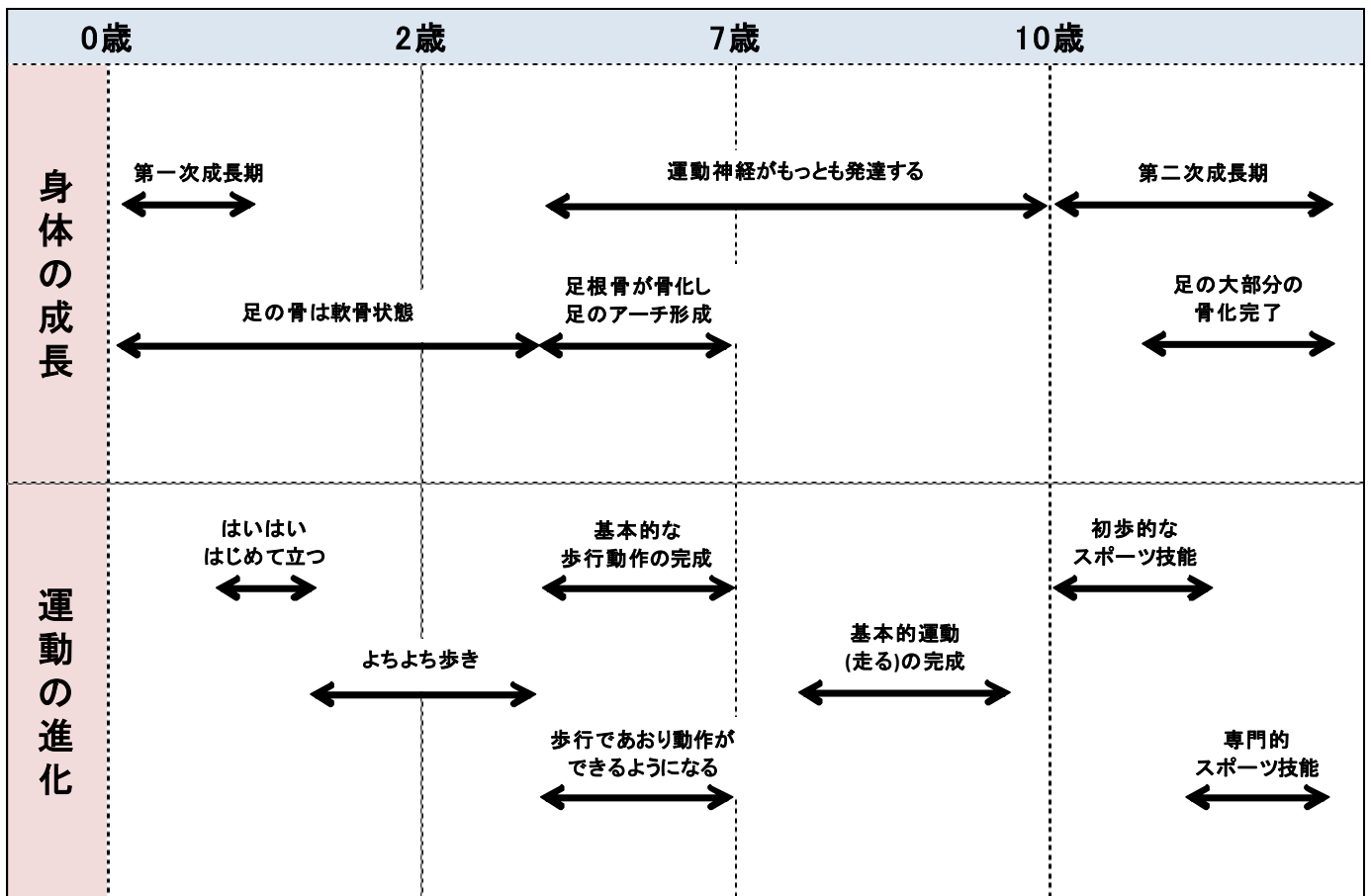
**7～10歳；激しくなった動きから足を守るために、クッション性のよい動きやすい靴を選ぶことが大切。**

骨格も完成に近づき、基本的運動も習得し、いよいよ一人前の大人に向かってスタートを切った子どもたち。

この時期の子どもたちには、さまざまな運動を経験させ、多くのスキルを習得させるとともに、さまざまなスポーツの楽しさを経験させ、将来への可能性を最大限に広げてあげる事が重要となるのです。

子どもたちが自分の運動能力を最大限に発揮できるとともに、激しくなった動きから足を守るために、クッション性のよい動きやすい靴を選ぶことが大切です。

●●●子どもの成長過程●●●



## 地域の事業所紹介 Part11

### 児童デイサービス

#### おりーぶおりーぶ名古屋西（名古屋市西区）

今回は2グループに分かれて、平成22年2月に開所した「児童デイサービスおりーぶおりーぶ名古屋西」を見学させていただきました。西区の庄内緑地公園から徒歩3分程で、当センターからも車で5分程の所にありました。手足の不自由な子が通う名古屋養護学校が近いこともあってか、体にハンディキャップを持っている子が多く通っているとのことでした。

#### ☆1グループ；ドッグセラピー☆

子どもたちの準備が整った所で、揃いのスカジャンを着たラブラドルレトリバーという大きな犬が飼い主（ハンドラー）と一緒に登場してきました。まずは、子どもたちと犬が対面で自己紹介する所から始まり、エサをあげたり、

触れ合ったりという個別での触れ合いの時間となります。フロアにマットが引かれ、9人の子どもたちと6匹の犬たちがゆったりと思い思いに触れ合っていました。そして、みんなで遊ぶプログラムでは、みんなでタンバリンを鳴らして遊んでいました。子どもたちの嬉しそうな顔を見ると、あっという間にドッグセラピーの時間が終了となりました。

犬にエサをあげたり、犬と遊んだりといった犬と触れ合いの中から、思いやりや「順番を待つ」というような社会のルールも



身に付けてほしいとの狙いもあるとのことでした。また、犬を見ようと首や体の向きを変えたり、手を伸ばして触ろうとしたりという自発的な動きが引き出されることもあるそうです。そして何より、犬と触れ合うことでの癒しの効果は、子どもたちの表情から見て取れました。

ドッグセラピーを始めた当初はみんな緊張していたそうですが、犬が怖い子は離れた所から見ていたり、犬の顔が見えないようにシッポを触ったりと、時間をかけて犬に慣れ親しんでいったそうです。毎回、子どもたちの表情や動きの変化を振り返りながら関わっている。との話を伺い、子どもたちの嬉しそうな表情の理由がわかったような気がしました。

#### ☆2グループ；ミュージックセラピー☆

ミュージックセラピーは、音楽療法士を中心に週に2～3回行われているそうです。季節の歌やAKB48の「会いたかった」など流行の歌を織り交ぜながら行われていました。

音楽に合わせて、タンバリンやカスタネット、ジャンベという手でたたく太鼓など、さまざまな楽器が登場し、思い思いの音が奏でられていました。楽器に触れる、楽器を持つ、楽器を鳴らす、声を出す…子どもたちの持っている力を活かすような形で、「その子の音」を大切にしながら取り組んでいるとのことでした。音楽に合わせて、体を動かすこ

とも取り入れており、「さんぽ♪」に合わせて、歩く子、足踏みする子、足をタッピングしてもらおう子。スピードの変化もあり、早く歩く、止まる。など、子どもたちは大盛り上がりでした。

子どもたちの様子を細かく観察し、子どもたちの頑張りに、「いい音だね」「上手にできたね」と、声をかけながら進められていました。「子どものありのままを褒める」ことで、「子どもたちの意欲が高められるように」と考えているとのことでした。

他のプログラムとして、クッキングや、季節に合わせた制作なども取り入れているそうです。



「おりーぶおりーぶ」は元々は江南市でサービスを提供していたそうですが、近隣の市町の方から「新しい事業所が欲しい」との声があり、江南の事業所と提供エリアが重ならない、西区に新たにオープンしたとのことでした。基本的な提供エリアは西区と近隣市町村とのことですが、送迎の可能な範囲内で相談に応じてもらえるそうです。

開所当時は、曜日によって小学生中心、中高生中心、肢体不自由の子ども中心というような形で行うことも考えていたようです。しかし、肢体不自由の小学生が利用の大半を占めていることもあり、現在は利用する方の希望にそった形で、利用日を調整しているとのことでした。医療的ケア

が必要な子の希望もあり、看護師を配置して受け入れている日もあるそうです。少しでも多くのニーズに応えたいと、看護師の配置を増やすことも検討されているとのことでした。

隣の子と手足が接触する場面もあり、はじめは「少し狭いかな」と感じました。しかし、子どもたちとスタッフが触れ合える距離で、多少の接触では泣くこともなく、たくましく過ごしている姿を見て、肢体不自由の子どもたちにとって、安心してくつろげる空間であると感じました。

今は小学生が中心ですが、幼児から高校生まで受け入れることが可能で、「将来的には就労支援も考えていきたい」と話してくださいました。学齢期のサービスは少しずつ増えてきていますが、卒業後のサービスはまだ不足しているように



感じます。地域の受け皿が少しでも充実するように、「おりーぶおりーぶ」の今後の活躍が楽しみです。

(地域療育担当)

#### ♪お問い合わせ先♪

児童デイサービスおりーぶおりーぶ名古屋西  
住所：名古屋市西区市場木町242  
電話：052-508-7633  
営業時間：月～金曜日（14：30～18：30）  
\*土・日・祝日はお休みです。

### ☆ おりーぶおりーぶ名古屋西 の日程 ☆

- 14：30 送迎開始
- 15：30 サービス開始  
バイタルチェック・排泄介助等
- 16：00 集団療法（ミュージックセラピー・  
ドッグセラピー・クッキング等）  
個別療育（月別課題制作等）
- 16：45 おやつ
- 17：15 帰りの準備（排泄介助等）
- 17：30 サービス終了
- 18：30 送迎終了

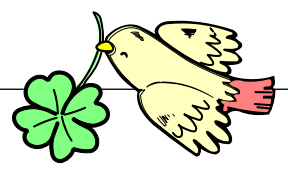
定員：10人

利用料金（制度対象）

- ・基本サービス利用料 731円/1回
- ・自宅送迎 58円/1回

（制度対象外）

- ・自宅外送迎 250円/1回



## 外来診療のご案内

	月	火	水	木	金
<b>午前</b> 9:00 ~ 12:00	リハ科(岡川)  小児科(麻生)  児童精神科(野邑) <第1・3・5>  歯科(伊藤)	小児発達外来(安井)  皮膚科(杉浦)  児童精神科(松平) <第1・3・5>  児童精神科(小野) <第2>  眼科(森)	リハ科(岡川)  小児科(麻生)  小児発達外来(安井)	整形外科(栗田)  耳鼻科(別府)  児童精神科(早川) <第2・4>	整形外科(栗田)  小児科(安井)  小児科(橋本) <第1・3・5>  小児科(東) <第2・4>  児童精神科(鈴木) <第1・3・5>
<b>午後</b> 1:30 ~ 4:00	耳鼻科(別府)  児童精神科(野邑)  歯科(伊藤)  外来新患カナルソ	小児科・染色体外来 (山中) <第2・4>  児童精神科(松平) <第1・3・5>  児童精神科(小野) <第2>	リハ科(岡川)  小児発達外来(安井)  泌尿器科(斎藤) <原則として第2・4>  眼科(高井)  歯科(岡本)	児童精神科(早川) <第2・4>  歯科(河合) <毎月1回>	児童精神科(鈴木) <第1・3・5>  小児外科 (小児外科医) <第3>

○平成23年4月1日現在の外来診療です。  
 ○受診を希望される方は、電話で予約してください。



ホームページもご覧ください  
<http://www.009.upp.so-net.ne.jp/aitori/>  
 \*過去の「のびやか」も掲載されています。